

(2) フレッシュメント・フリーバー」號竺礁關係

F-0150

0178

主信	5	1	6
附	甲		
	乙		
	丙		
屬	丁		
備考			

懸案

情報部

東
亞高第課

公 信 案

外 務 省

米國船希望ヲ容ルル件許可方至

右職工ノ乘込方許可也之レトキ旨申

一途中一修理ヲ行ヒ初キ期ヲ以テ

二十人ヲ乗込マシメテ横濱迄航海

神戶着目ノ際川崎造船所金屋

館ヨリ別紙字ノ通令紙ニ於テ人同船

ノ修理工ノ乗込方ノ般在米國方面

文書課長

文書課發送

主 亞米利加局長

任 第一課長

昭和十一年 月 日附 附屬

淨書 正校(原稿) (淨書)

昭和一十一年 月 二日起草

米一普通第 號

受信人名

渡信次官

神戶支隊

航海中修理ヲ行フニ付

名件録記

名信發

堀内次官

佐田

米國船九ノ一號ノ修理期間ニ付

一月三十日上海ニ於テ奇福ニ遭ヘル米國

ノ修理工ノ乗込方ノ般在米國方面

公 信 案

外 務 省

F-0150

0180

主信	1	1	1
附屬	甲		
	乙		
	丙		
	丁		
備考			

懸案

取止

公文書	件名	受信人	陸軍省 海軍省 陸軍省 海軍省	
		署名	大藏省	
主	米一普通	管主	亞米利加局長	
		任主	第一課長	
號	昭和	年	月	
				日附
淨書	正校(原稿)	(淨書)	昭	和
			十	二
名件録記	名人信發	堀内 治之		
		堀内 治之		
本件は、昭和十一年九月二日、陸軍省海軍省に送付された。				
本件は、昭和十一年九月二日、陸軍省海軍省に送付された。				
本件は、昭和十一年九月二日、陸軍省海軍省に送付された。				
本件は、昭和十一年九月二日、陸軍省海軍省に送付された。				
本件は、昭和十一年九月二日、陸軍省海軍省に送付された。				

文書課長

文書課發送

淨書

正校(原稿)

(淨書)

昭和十二年九月二日 起草

公文書

外務省

別添葉文字附(添付)

大藏省

陸軍省 海軍省 陸軍省 海軍省

本信は送付先

本信は送付先
 陸軍省 海軍省 陸軍省 海軍省
 本信は送付先

F-0150

0181

電信案

外務省

(原議用紙乙)

關係留艦ニ通報了リ、其旨、依於蘇ルニ以テ陸海、
 連名者ニ通知シ、並ニ其旨、關係留艦ニ通報了リ、
 有知御指退了リ、其旨、依於蘇ルニ以テ陸海、

(分類)

電 信 案 第 一 二 日 現 場 外 務 省	電送第 31864 號	主 管 亞 米 利 加 局 長 了
	昭和 12 年 12 月 9 日 午後 7 時 20 分發	任 主 第 一 課 長 了
略 名 艦 叔 切 為 收 遣 ニ 付 件	件 フ ー バ ー 号 查 獲 ニ 付 米 運 送 名 件 録 記	發 回 大 臣
第 三三 號	台湾 台北 加藤外務課長	昭和 12 年 12 月 11 日 起草

土日別 在米米運供破了、
 台湾南方系、
 叔切艦、
 米運送艦、
 到着了、

電信課長

發電係

2

初稿

記

F-0150

0182

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和12 三二三三四 暗 臺北 十二月十一日後發 本省 十一日夜着 米

廣田外務大臣

第三三九號(至急)

加藤臺灣外事課長

「プレジデント、フーパー」號今朝午前一時三十分臺東廳沖火燒島北緯二十二度四十分、東徑百二十一度二十八分ニ於テ坐礁「ホール」ニ浸水ヲ見タルモ差當リ危險ナキモノノ如シ同船ニハ約四百五十名ノ乗客アリ午前三時火燒島ヨリ發動機船出動シ救助ニ當リツツアルモ風波強ク作業困難ノ模様ナリ人命救助ノ爲不取敢基隆ヨリO、S、K 鳳山丸急行方手配中 尙海軍側ニ於テハ船體救助ヲ要スル場合ハ本邦側ニ於テ之ニ當ルコ

外務省

外務省船舶遭難手配案件

トトシ時局柄香港、馬尼刺ヨリ「サルベージ、ボート」ヲ派遣セシメサル様致度キ旨申シ居レリ 右來訪ノ當地米國領事ニ話シ置キタリ 右不取敢馬尼刺及香港へ轉電セリ 御見込ノ向へ轉電アリ度シ

外務省

F-0150

0183

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調査 人事 文書 會計 秘書官

昭和12 三二四〇八 暗 臺北 十二月十二日後發 本省 十二日夜着 米

廣田外務大臣 加藤臺灣外事課長

第三三六號(大至急)

往電第三三五號ニ關シ

救難ノ爲馬尼刺ヨリ米國驅逐艦二隻派遣セラルルコトナリ今夜十時頃現場ニ到着スル趣ナル旨當地米國領事ヨリ報告ノ次第アリタル處中央ニ於ケル米國側トノ御交渉ハ如何相成リ居ルヤ至急御電報煩度シ(了)

(十二月十一日來電第三三九號ハ第三三五號ノ誤ト認メラル)

電信課

寫送先

外務省

外國船舶遭難事件

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調査 人事 文書 會計 秘書官

昭和12 三二五〇一 平 臺北 十二月十三日後發 本省 十四日前着 米

廣田外務大臣 加藤臺灣外事課長

第三三七號(大至急)

「フリーバー」號ハ乗客四三七名(内日本人一三名)、船員三一二名計七四九名、雜貨五八〇〇噸ヲ積ミ神戸ヨリ馬尼刺ニ赴ク途中遭難セルモノナル處火燒島北側公館海岸ニ船首ヲ東向ケニ坐礁シ居リ損傷ノ程度未タ不明ナルモ各船艙共浸水シ顛覆ノ惧ナキモ到底離礁ノ見込ナキ趣ナリ 今日迄ノ救助狀況左ノ通り 十一月未明附近航海中ナリシ獨逸船「プロイセン」號來航セルカ人

寫送先

外務省

老納内侍

F-0150

0184

命安全ナルヲ確カメ通過シ次テ軍艦多摩ヨリ飛行機飛來シ通信筒ヲ
投シテ帝國軍艦來航スヘキ旨ヲ告ケ續イテ軍艦足柄現場ニ來着シ保
護ニ當ル

翌十二日「エムプレス・オブ・アジャ」香港ヨリ救助ノ爲來航シタ
ルモ救助手配整ヒタル爲其ノ儘歸香シ鳳山丸ハ同日午後三時遭難現
場ノ海岸ニ到着セルカ當時既ニ人員ハ船員三〇名ヲ除キ總テ火燒島
ニ上陸シ公學校等ニ收容セラレ居リタリ乗員ハ當初鳳山丸ニテ馬尼
刺ヘ送届クル筈ナリシモ本日午前香港ヨリ「ブレジデント・マツキ
ンレー」來航セル爲之ニ三八〇名收容シテ馬尼刺ヘ向ケ午後二時出
帆セリ殘員ハ「ブレジデント・ピアス」號香港ヨリ來航收容ノ豫定
ナリ船體救助ニ付テハ（脱）ニ於テ之ニ當ルコトニ東京ニテ話付キ

外務省

日本「サルベージ」美保丸十二日門司發現場ニ急航中ナリ
尙遭難狀況検査ノ爲香港ヨリ同社船「ユウシヨウ」丸昨夜半同地出帆ノ
報告アリ目下現場ニハ鳳山丸（同船ハ人員救助完了迄現場ニ止マル
筈）ノ外米艦 Alden 並ニ Barker 假泊中ナルカ當地米國領事ノ通報
ニ依レハ十五日頃上海ヨリ米艦 Augusta 現場ニ來航スル由
馬尼刺、香港ヘ轉電セリ

外務省

外國船舶遭難係件

電信課長

昭和12 三二五一七 平 臺北 十二月十三日後發 情、米
本省 十四日前着

大臣

廣田外務大臣

加藤臺灣外事課長

次官

第三三八號

馬尼刺發本官宛電報

第一一二號

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 祕書官

十三日「ヘラルド」紙所報ニ依レハ米國「ハイコンミツシヨナー」宛無電ニ依レハ「フウバー」號救助ノ爲馬尼刺ヨリ現地ニ向ヒタル米國驅逐艦二隻ノ内「アルデン」ハ日本驅逐艦ニ依リ停船ヲ命セラレ米國砲艦カ日本領海内ニ入ルニハ日本當局ノ許可ヲ受ケタル外交文書ヲ提示スヘシト要求セラレタルカ「アルデン」艦長ハ亞細亞艦

寫送先

外務省

隊司令長官「ヤアネル」ヲ通シテ入手セル東京發給ノ書類ヲ提示セル後初メテ通航ヲ許サレタリト言フ
大臣へ轉電請フ

外務省

F-0150

0185

December 13, 1937.



The following requests for naval vessels to proceed to Japanese waters in connection with the grounding of steamship "PRESIDENT HOOVER" have been received from Commander in Chief, Asiatic Fleet.

BARKER AND ALDEN (destroyers) WILL ARRIVE SUNDAY AT HOISHOTO WHERE PRESHOOVER IS AGROUND TO RENDER ASSISTANCE AND SAFEGUARD PASSENGERS PLEASE NOTIFY APPROPRIATE OFFICIALS
(Sent from Shanghai at 11.46 p.m. 11 December and received here Sunday morning).

Mr. Ishii of Foreign Office orally stated there was no objection to this visit and information to this effect was sent to American Consul, Taihoku and Commander in Chief, Asiatic Fleet.

THE COMMANDER IN CHIEF OF THE UNITED STATES ASIATIC FLEET ADMIRAL YARNELL IN THE U.S.S. AUGUSTA INTENDS INSPECT RESCUE OPERATIONS AT PRESHOOVER AFTERNOON FIFTEENTH OR MORNING SIXTEENTH OTHER NAVAL VESSELS MAY BE ORDERED THERE IF CIRCUMSTANCES DEMAND IN WHICH CASE AS MUCH NOTICE AS POSSIBLE WILL BE GIVEN PERIOD PLEASE NOTIFY PROPER OFFICIALS CINCAF
(Received Monday morning).

STEAMSHIP PRES MCKINLEY PROCEEDING TO ASSISTANCE OF PRESHOOVER ASSUME NO OBJECTION CINCAF
(Received Monday morning).

十三日
米大統領
自
将
官

F-0150

0187

支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之

(分類)

電信案内	暗	電送第 32129 號	主 管 亞米利加局長 菅澤
	★ 明	昭和二十一年二月三日 午後 11 時 50 分 發	任 主 第一課長 岡本
電信案内	名 件	宛 台 並	發 廣田大臣
	第一三六一號	加務外事課長	
電信案内	第一三六一號	件 附ノ件	名 件 錄 記
	至急		

電信課長

(西)

發電係

13 10

昭和二十一年二月十三日起草

同件 吉澤局長に來訪シ「フ」号機ノ為メ
 香港ヨリ「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

「フ」号機ノ乗客並ニ船員等約「フ」号機
 支那人荷役人夫約二百名を伴って現地に赴く者あり森岡總務長有之
 (電信課長より)

(原議用紙乙)

電信案内

外務省

電 信 案

由 本 局 特 許 局 へ 送 付 せ ば 必 要 已 申 上 陸 中 一 人 夫
社 務 省 外 務 省

本 局 特 許 局 へ 送 付 せ ば 必 要 已 申 上 陸 中 一 人 夫
社 務 省 外 務 省

本 局 特 許 局 へ 送 付 せ ば 必 要 已 申 上 陸 中 一 人 夫
社 務 省 外 務 省

本 局 特 許 局 へ 送 付 せ ば 必 要 已 申 上 陸 中 一 人 夫
社 務 省 外 務 省

本 局 特 許 局 へ 送 付 せ ば 必 要 已 申 上 陸 中 一 人 夫
社 務 省 外 務 省

本 局 特 許 局 へ 送 付 せ ば 必 要 已 申 上 陸 中 一 人 夫
社 務 省 外 務 省

本 局 特 許 局 へ 送 付 せ ば 必 要 已 申 上 陸 中 一 人 夫
社 務 省 外 務 省

本 局 特 許 局 へ 送 付 せ ば 必 要 已 申 上 陸 中 一 人 夫
社 務 省 外 務 省

本 局 特 許 局 へ 送 付 せ ば 必 要 已 申 上 陸 中 一 人 夫
社 務 省 外 務 省

(原議用紙乙)

(分類)

電 信 案

外 務 省

十 三 日 米 田 大 作 船 長 等 外 務 省 へ 送 付 せ ば 必 要 已 申 上 陸 中 一 人 夫
社 務 省 外 務 省

フレンデント、フーバー、船長等、二回シ

五横法

社務省

C. W. GABRIELSON

GENERAL AGENT
DOLLAR STEAMSHIP LINE
AMERICAN MAIL LINE

YOKOHAMA

米田大作、森岡總務長等へ

昭和十一年十二月廿三日		午後五時五分發	
名	件	宛	
第一三六號		加藤外事課長	台紙
米田大作		船長等	二回シ
名件録記	發 米田大 臣		

主 任 第一課長

亞米利加局長

昭和十一年十二月廿三日起草

電信課長

發電係

13 10

電信案

外務省

ノ俄至急脚回電相煩ハシ取

(原議用紙乙)

電信案

外務省

ノ監督人良釋^後全責^生以^買ト船便^トキ次^ヲ送^送ル^ルト
 引揚^トシテ^キ付^付此際^此急^急状^状態^態ニ^ニ對^對ス^ス特^特別^別ノ
 措置^措ト^トシテ^シ上^上陸^陸許^許サ^サト^トテ^テ極^極力^力ヲ^ヲ盡^盡ス^ス
 ニ^ニ旨^旨申^申セ^セテ^テ之^之類^類ナ^リ知^知ル^ル現^現下^下暫^暫時^時情^情勢^勢ニ^ニ對^對シ
 殊^殊ニ^ニ米^米西^西砲^砲艦^艦ハ^ハ不^不測^測ノ^ノ事^事ト^トシテ^シ警^警沈^沈ノ^ノ件^件勃^勃発^発ノ^ノ折^折衝^衝
 ニ^ニモ^モア^リリ^リ現^現地^地ニ^ニ在^在ル^ル種^種々^々ノ^ノ困^困難^難ハ^ハ予^予情^情ハ^ハ有^有之^之ヘ^ヘキ^キ
 有^有米^米不^不測^測ノ^ノ事^事ト^トシテ^シ達^達成^成方^方特^特ニ^ニ脚^脚配^配慮^慮ヲ^ヲ得^得取^取何^何分

(原議用紙乙)

F-0150

0150

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

外國船舶遭難事件

昭和12 三二五八七 暗

臺北 十二月十四日後發 十四日夜着

米

廣田外務大臣

加藤臺灣外事課長

第三三九號 (大至急)

堀内次官へ二見警務局長代理ヨリ

貴電第一三六號ニ關シ(「フーバー」號坐礁ノ件)

時局柄國際關係ヲ篤ト考慮シ當方ニ於テハ「フ」號救難方ニ付テハ

法的手續ノ如キ總テヲ度外視シテ官民共衷心協力致シ居ル次第ナル

カ御申越ノ點早速臺東廳ニ電照シタル處「マ」號ノ支那人夫上陸許

可方申出ヲ受ケタルコトナク從テ之ヲ拒絶セルコトナキ由ニテ如何

ナル次第ニテ斯様ナル間違ヲ生シタルヤ訝リ居レリ尙若シ斯ル申出

外務省

アル場合ニハ當方トシテハ勿論之ヲ許可スル方針ナリ不取敢(了)

外務省

文書課長

文書課發送 昭和拾貳年五月拾四日發送済

淨書

正校(原稿)

(淨書)

主 亞米利加局長

任 第一課長

昭和十二年十二月二日起草

米一普通第一五七號

昭和拾貳年五月拾四日附 附屬

在 京

外務省

米國大使館

件名 フレイト・フォーバー 號遭難 南シ 協力申入方ノ件

帝國外務省ハ米國商船 フレイト・フォーバー

號本月十一日午前一時三十分 臺灣 臺東廳

沖合火燒島ニ於テ坐礁ニタリトノ報道ヲ

懸案

發信用	執務用		
主信	1	4	5
附	甲		
	乙		
	丙		
局	丁		
備考			

接受シタルヲ以テ帝國海軍省ニ相計リタル
 巡海軍側ニ於テハ右船体救助並ニ船客ノ生命
 安全ヲ深ク顧念シ速刻帝國海軍巡艦一隻同
 駆逐艦一隻及商船一隻ニ對シ急遽現場ニ
 直行シ救援作業ニ協力スル様指令致シタル旨
 及帝國海軍省ハ本件救援作業ニ關シ能ク限リ
 協力ニ致度米國政府ニ於テ右協力ニ付テ何事

公 信 案

外 務 省

公
信
案

外
務
省

ホリ光栄ヲ有ス

公
信
案

外
務
省

御希望有之ハ、躊躇ハ御申出相成様貴大
使館ヲ通シ米國政府ニ傳達アリ度趣ヲ以テ申越
シテリタル旨、此般申進ルル光栄ヲ有ス
亦、貴米國大使館ヨリ方、大樽島ハ、大樽島ノ
並護衛ノ為米國艦隊ハ、大樽島又アル様
ナリト為云々、大樽島國領内ニ御方御申進
ルル件ニ付テモ、大樽島此般申進

F-0150

0193

電信案

限リ便宜供與方旋アリ也貴地團信所トモ可

同艦現地未航ニ取扱ニ従事スルカ如キ場合ニ能ク

場ニ未航スルヤ否ニ付テハ確報ナク趣

トノ情報ハ報ハ有レ也果シテ「ア」号艦難現

夕ハ既ニ十四日上海ヲ出発シ「マニラ」ニ向ヒタリ

故ニ固シ先方ニ付確メタル所ニ依テハ米艦「オカス

ニ通報アリテ旨依頼致シ由キ冒頭貴電末

(原議用紙乙)

(分類)

電信案

外務省

管主 亞米利加局長 (印)

任主 第一課長 (印)

昭和十二年十一月十四日起草

電信課長 (印)

發電係 14

32265 號

電送第 32265 號

昭和十二年十一月十四日

加 藤 外 事 課 長

發 田 大 臣

第一三〇號

名件録記

ノ為同日申ニ現場ニ到着スヘキニ付關係官方

十四日米國大使館ヨリカレシテ「オカス」號小

貴電カ三三三號ニ固シ

「オカス」號小

F-0150

0194

寫送先

老總內侍 發送済

外務省

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 文書 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

録

昭和12 三二七二〇 平 臺北 十二月十五日午後 米

廣田外務大臣

第三四〇號

馬尼刺發本官宛電報

第一一三號

貴官發大臣宛電報第三三八號ニ關シ

「フーパー」號遭難者ヲ收容セル「マツキンレイ」號ハ十五日午後

二時來着セリ

大臣へ轉電アリタシ

外五般船遭難等件

加藤臺灣外事課長

電信案

外務省

然一御連絡アリタシ (当地陸海軍共了解済)

(原議用紙乙)

F-0150

0195

EMBASSY OF THE
UNITED STATES OF AMERICA

Note Verbale

The American Ambassador presents his compliments to the Ministry for Foreign Affairs and has the honor to refer to previous communications to the Ministry with regard to the steamship PRESIDENT HOOVER, which went aground off Kashoto Island, Taiwan, on December 11. Mr. Grew now has the honor to request that the Japanese Government grant permission to place eighty American naval personnel on board that vessel to operate its engineer department.

Tokyo, December 17, 1937.

F-0150

0196

電 信 案	
	打電ノ答
	トニ連絡シ可然 取計ハシ度シ (軍例ヨリモ現地ニ
	陸海軍例ニ依テモ 異存ナクニ付テハ 現地 関係 節
	マシメ度 証ヲ此ニ在許可 取付方申出テアリタル 処

(原議用紙乙)

(分類)

電 信 案	外 務 省	往電力一三五號ニ附シ	電送第 32636 號	管主 亞米利加局長
		十七日米國大使館ヨリ「 <u>所屬人員</u> 」號機関部運轉	昭和二十二年二月十七日 時 ¹⁰ 分發	主任 第一課長 湯
		必要上 米國海軍 八十名ヲ 同船ニ 乘組	略 名 件 宛	發 廣田大臣
		件	加藤 外事課長	
		第一四〇號	在 台北 台北	
		()	名件録記	
		()		
				昭和二十二年二月十七日起草
				電信課長
				發電係
				17

3

陸軍海軍兵
差支し何し
此也打電先

懸案

	發信用	執務用	
主信	2	1	3
附	2	1	3
甲			
乙			
丙			
丁			
備考			

文書課長

文書課發送 昭和拾貳年貳月拾八日發送済

主 亞米利加局長了

任 第一課長

米一普通合第 五六三三號

昭 昭和十二年十二月十八日附 附屬

淨書

正校(原稿)

(淨書)

別紙

船所

受 陸軍次官
海軍次官

名人信發 堀内 次官

名件録記

件 名 遭難米船「プレジデント」号ニ米國海軍兵
乗組方ニ関スル件

今般 在京米國大使館ヨリ十二月十七日附

口上書ヨリ同日十一月廿日接沖火燒島ニ

於テ坐礁遭難セル米國船「プレジデント」フルバー

公 信 案

外 務 省

(12.7.4)

18 79

號ノ機回部操作ノ必要ニ付、^{上同}國海軍所屬
員八十名ヲ乗組マシメ、^{之ニ}付、帝國政府ノ
却合因合ニ来リタルニ付テリ、^{詳細別紙寫ニ依リ物了知ノ上}本件ニ関スル貴見何
分ノ儀、至急御指示相成度

米方便紙未位寫作成上送付ノ下

公 信 案

外 務 省

F-0150

0198

DOLLAR STEAMSHIP LINES

AND

1419-CG AMERICAN MAIL LINE

環太平洋郵便船

ROUND THE WORLD
NEW YORK - CALIFORNIA
CALIFORNIA - NEW YORK

TRANS - PACIFIC
NEW YORK - ORIENT
ORIENT - NEW YORK

Yokohama
December 18, 1937

Mr. Seijiro Yoshizawa
Chief of the American Affairs Bureau
Japanese Foreign Office
TOKYO



Dear Mr. Yoshizawa:

I have been asked by the officials of the Dollar Line to thank you for the help rendered by the Japanese Government to the "President Hoover" now aground off Kasho Island. The promptness with which the Japanese Government sent aid and assistance to the "President Hoover" is very much appreciated.

Yours very truly,

C. Gabrielson
C. GABRIELSON
General Agent

CG:LT

見
下
付
切
一
字
送
付
し
て

フ
ー
バ
ー
ク

F-0150

0199

亞米利加局

第一課

昭和十二年三月廿二日接受

陸

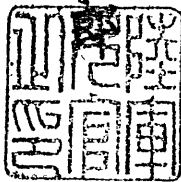
軍

陸普第七八四五號

遭難米船「ブレンデント、フーバー」號ニ米國海軍所屬
員乗組方ニ關スル件回答

昭和十二年三月廿一日 陸軍次官梅津美治

外務次官 堀内謙介殿



十二月十八日附米一普通合第五六三三號ヲ以テ御問合セニ係ル首
題ノ件差支無之ニ付先方ニ對シ現地日本官憲トモ密ニ連絡スル様
御傳達相成度

普通第七八五號

第三課

別紙添付

第一課長

普通第七八五號

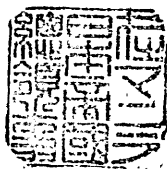
昭和十二年十二月二十一日

第二課長

在マニラ

總領事 内山

清



外務大臣 廣田 弘毅 殿

フーヴァー號救助ニ關シ小林臺灣總督
ニ謝意表示ノ件

先般火燒島ニ於テ遭難セルダラー汽船フーヴァー號乗客ヲ代表シ
當地在留米人實業家ハウスマンハ小林總督ニ宛テ十二月十三日フ
ーヴァー號救助ニ關スル臺灣總督府官民竝ニ海軍側ノ援助ニ對シ
謝電ヲ發シタルカ更ニ十二月二十日鄭重ナル謝狀ヲ差出セル趣ヲ
以テ當該電報竝ニ書面寫ヲ別紙ノ通り本官ニ送り越シタルニ付何

在マニラ日本總領事館

等御参考迄ニ貴覽ニ供シ度此段報告申進ス

本信寫送付先

在米大使

臺灣總督府

在マニラ日本總領事館

F-0150

0201

L. M. HAUSMAN & CO.
Machinery and Allied Products
Manila, Philippine Islands
Post Office Box 1729

December 20, 1937.

Your Excellency:

Permit me to thank you, on behalf of all the passengers of the distressed steamship "President Hoover", for the extremely kind message of sympathy expressed in your telegram addressed to me on December 16th. We all deeply appreciate your interest as well as the splendid assistance given us by the naval officers of the cruiser which rushed to our assistance, and the constant personal assistance rendered by the officials and residents of the island of Hoishoto.

Upon our safe deliverance aboard the steamer "President McKinley", the Hoover passengers met in a general assembly to discuss the recent incident, and by a resolution, unanimously approved by the meeting, I was directed to send a message conveying our thanks and appreciation through your goodself.

Due to the conditions prevailing, the meeting was of necessity informal, as was the radio which we sent to you, but I can assure you that our gratefulness for the kindness and consideration of all the Japanese officials with whom we came in contact as well as the people of the Island has made a deep seated impression in our hearts that will last long after the discomforts of our short stay have been forgotten.

I have made the contents of your kind cable known to all of the passengers of the Hoover and to the general public in the Philippine Islands through the medium of the Press and am sending a copy of the wires exchanged to His Excellency, the High Commissioner of the United States of America in the Philippine Islands.

Again expressing the appreciation of the Hoover passengers for your cordial message, I remain

Sincerely yours,

L. M. HAUSMAN

His Excellency,
Governor General Kobayashi,
Taihoku,
Formosa.

Cablegrams Exchanged:

December 13, 1937.

"Governor General
Taihoku, Formosa

Passengers s.s. President Hoover in meeting assembled aboard s.s. President McKinley desire convey to you their warm appreciation of aid and assistance rendered by officials and residents of Kashoto and naval officers during their enforced stay following Hoover disaster.

Signed Hausman Chairman"

December 16, 1937.

"Hausman President McKinley Manila Radio

Received your Cordial message Stop Accept my most sincere expression of sympathy for your unfortunate disaster Stop Regret my inability of giving you all passengers satisfactory consolation on such desolate island.

Governor General Kobayashi"

F-0150

0202

發信用		執務用	
主信	/	/	乙
附屬	甲		
	乙		
	丙		
	丁		
備考			

懸案

公文案	文書課發送 昭和拾貳年十二月廿貳日發送 亞米利加局長 米一普通第一號 昭利拾貳年十二月廿貳日 日附 附屬	主 第一課長 昭利拾貳年十二月廿貳日 昭利拾貳年十二月廿貳日	文書課長 在 京 米國大使	受 信 人 名 在 京 米國大使	件 名 (米國船「プレジデント・フォーバー」號被擄ニ関スル件) 口上書白 帝國外務省ハ米國大使館ヨリ十二月十七日 附口上書ヲ以テ 暎ニ台博沖火燒島ニ坐 礁ニタル米國船「プレジデント・フォーバー」號ノ機密部
-----	--	--------------------------------------	---------------------	------------------------	---

(12.7 4) 22 140

亞米利加局
官房第六四九三號ノ二

昭和十二年十二月二十二日

海軍次官 山本 五十六

外務次官 堀 内 謙 介 殿

遭難米船「プレジデント、フォーバー」號ニ米國
海軍所屬員ノ乗組方ニ關スル件回答

米一普通合第五六三三號ヲ以テ照會首題ノ件當省トシテ異存無之候

(終)

昭利拾貳年十二月廿
亞米利加
12.12.22
第一課

F-0150

0203

公
信
案

外
務
省

幹旋スヘキ様訓令致シ置キタルニ付右申條フ

公
信
案

外
務
省

通報ニ關係當局トモ連絡ノ上便宜供與方

尚且本件ニ關シテハ出先宥密ニ對シ右事山ヲ

有ル

シテハ右ニ異存無之旨回答申進スルノ光榮ヲ

固合也有之タル次第ヲ諒承シ帝國政府ト

一乘組マシメ度ヲ趣ヲ以テ帝國政府ノ都合

操作ノ必要上同國海軍所屬員八十名ヲ之

F-0150

0204

主信		3	1	4
附屬	甲	共	1	位
	乙			
	丙			
	丁			
備考				

懸案

公文信案	火燒島ニ於テ坐礁セル同社所有船「ブレンデントラー」	リ吉次亞米利加局長宛書翰ヲ以テ送致台湾沖	今般米國「ワタリ」汽船会社總代理人「カブリエル」ヨ	米國船「ブレンデントラー」ノ救出ニ関スル件	受信人	陸軍次官	海軍次官	
					受信人	台湾總督府總務長官	名件録記	名人信發
主管	亞米利加局長	主任	第一課長	昭和十二年十二月二十日起草	文書課發送	昭和拾貳年臘月廿九日發送濟淨書	正校(原稿)	淨書
米一掛	普通密合第五七八三號	昭和拾貳年十二月廿八日附	附屬		文書課長		別紙	

28 212

大臣 次官

電信課長

東亞 歐洲 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

外國汽船遭難事件

昭和13 二一〇〇 暗 臺北 一月廿五日後發 本省 廿五日夜着 米、情

廣田外務大臣

第一六號

馬尼刺發本官宛電報

第三號

「ダラー」汽船會社ニ於テハ火燒島ニ坐礁セル「ブーバー」ノ救助見込ナキニ付「アバンダーン」スル旨聲明セル趣新聞ニ報道セラレタルカ全船ノ現狀等如何ナリ居ルヤ當館參考迄(御回電アリタシ)大臣ヘ轉電アリタシ

外務省

F-0150

0205

公 信 案				(別紙英文字其価添付)	知相成度此段申込ス	意ヲ表スル旨別紙字ノ通申越セルニ付右称仰了	功殊ニ右援助ノ迅速ナリレコトニ対シ深甚ナル謝	一ノ跡ノ故本ニ関シ日本政府ニ依リ提供セラレタル核				
-------------	--	--	--	-------------	-----------	-----------------------	------------------------	--------------------------	--	--	--	--

F-0150

0206

DOLLAR STEAMSHIP LINES
AND
1419-CG AMERICAN MAIL LINE

Yokohama
December 18, 1937.

Mr. Seijiro Yoshizawa
Chief of the American Affairs Bureau
Japanese Foreign Office
TOKYO

Dear Mr. Yoshizawa:

I have been asked by the officials of the Dollar Line to thank you for the help rendered by the Japanese Government to the "President Hoover" now ^{abandoned} aground off Kashi Island. The promptness with which the Japanese Government sent aid and assistance to the "President Hoover" is very much appreciated.

Yours very truly,

Signed:

C. GABRIELSON
General Agent

CG:LT

F-0150

0207

亞米利加局

第一課 回封

附屬添附

普通第三八號

昭和十三年一月二十三日

在シアトル

領事館事務代理 石出 瑞



外務大臣 廣田 弘毅 殿

「ブレヂデント、フリーバー」號 遭難査問會
ノ記事ニ關スル件

客年十二月臺灣海峽ニ於テ遭難セル American Mail Line

船 Pre-

ident Hoover 乗組船員ニシテ當地ニ上陸歸米シタル者ニ對シ行

ハレタル聯邦「マリオン、ボード」査問會ニ於ケル陳述トシテ當
地新聞ノ報道スル所ニヨレバ其火燒島避難ノ際同地警官ハ避難者

在シヤトル日本領事館

所持ノ銃器ヲ沒收シタルコト又來接ノ米國驅逐艦乗員ノ上陸ニ當
リテモ武裝スベカラザルコトヲ要求セル事實アリタル外島民トノ
間ニ多少ノ悶着アリタル趣ナルニ付御參考迄同記事切抜添付此段
報告申進ス

本信寫送付先 在米大使 桑港 羅府

在シヤトル日本領事館

Japanese Seized Arms, Says Officer

(Continued From Page One.)

arms. Later the Japanese police on the island confiscated them. They gave us receipts for the weapons, however. When the American destroyer arrived the Japanese said the men from it could land if they were not armed.

Scenes of wrangling among the crew of the President Hoover, its passengers and Japanese naval authorities and the difficulty the President Hoover's officers had in controlling the situation on the Hoishoto Island were described on the stand by Robert Sweetser of San Francisco, second officer on the liner.

Sweetser testified about conditions on the islands as follows:

"After I was assigned to shore duty I went to the compound on the island. I segregated the crew, putting the passengers in one room and the crew in the other. A Japanese woman came to the compound and offered the hospitality of some private homes there to the passengers.

Short of Blankets

"But some of the passengers had been at the homes and had seen cockroaches there and undesirable conditions and decided to stay in the compound. There were about three blankets for every passenger and one blanket for every three members of the crew. I heard some cursing among the crew, but they had a hard time getting under shelter on account of conditions. I wasn't too hard on them.

"A lot of the passengers complained to me, especially one passenger. He wanted to take charge. He went to some of the crew who were preparing food and told them he represented the passengers' committee and demanded certain things that were impossible to carry out. Later he and a doctor, also a passenger, announced all about the place that the President Hoover's officers were no longer in charge.

"When the Japanese warship arrived and Japanese landed, some of the passengers went to them and asked for food and other things. The whole thing got to be a cat-and-dog fight. The Japanese wanted to help, but seemed very perplexed. I got in very bad with the Japanese when I couldn't make them understand why I couldn't bring our captain ashore.

Just Threw Him Out

"There were a lot of arguments. There were some charges that some of the passengers had manhandled the villagers. The only thing I saw was one passenger pick up one of these villagers and throw him a few feet.

"The villager had been going through the passengers' luggage, purely through curiosity, I think. The islanders speak a peculiar dialect, understandable neither to the Japanese nor the Chinese. I saw some drinking among members of our crew.

"But the whole thing was so difficult that I didn't feel called on to adopt stern measures. The main trouble was that we couldn't prepare the food we brought ashore because of the lack of stoves. We finally got some steaks and other things cooked, and after we got the food distributed around there was very little trouble."

Officer Sweetser, who was in charge on the bridge when the Hoover crashed, said the crash was caused by the fact that the ship was going faster than had been estimated.

Tells of Drinking

Officer Lees also was questioned as to whether he saw any drinking on the island. It has been charged by some passengers that some members of the crew were drunk. At an early time in the inquiry held in San Francisco, crew members said that some passengers were intoxicated. On this point Lees testified as follows:

"I saw five of the crew, and four or five passengers under the influence of liquor on the island. That is all. I do not know whether the liquor was taken ashore by crew members or passengers. I assume it came from the ship."

Lees said none of the bars on the ship showed evidence of having been broken into. He said the handling of the lifeboats were highly efficient. Numerous passengers praised the way the landing was handled.

Lees said he was on the starboard wing of the bridge when the President Hoover struck the reef. He had gone on duty just a few minutes before the crash. He testified that when he went on duty the second officer had informed him that the skipper, Capt. G. W. Yardley, had changed the course of the ship. The new course, Lees testified, would take the ship further seaward than the original course.

When Hoover Struck

"It was a misty black night. From my place on the bridge, I suddenly saw a white line ahead. I shouted, 'Breakers ahead.' I saw Second Officer Sweetser then signal full speed astern, and we struck. I was assigned to the ship's launch, which stood by to aid the lifeboats, and then assigned to shore duty."

Asked whether he had been able to dispel any disorder among the crew or passengers ashore, Lees said that he twice stopped a couple of crew members in brawls. He said he saw no blows struck and did not know what the arguments were over.

JAN 21

THE SEATTLE TIMES

Japanese Seized Hoover Arms, Says Officer

The Japanese police on the island of Hoishoto disarmed American officers of the President Hoover while the ship lay helpless on the reef of the island. It was testified here today at the government's inquiry into the wreck of the liner.

One of the American ship's officers, R. W. Lees of Berkeley, Calif., junior officer and a witness at the inquiry, told how the Japanese authorities seized the weapons from the Americans when the latter landed.

Lees, at the time of the seizure, was among the officers detailed ashore to direct crew members and aid passengers. All the passengers and many members of the crew had been landed.

Lees' testimony on the disarming was brought out when he was questioned by Capt. W. W. Storey, member of the Marine Board which is making the investigation.

Q. When you were detailed ashore you and the other officers carried revolvers and cartridges, did you not? A. Yes, sir.

Q. Did you need these weapons for your protection? A. Sir, I could not say.

Q. Did you have any occasion to use the guns? A. No, sir.

Q. Were the Japanese authorities concerned over your carrying the weapons? A. Yes. They took the names of all of us who carried

(Continued on Page 3, Column 5.)

主信	3	1	4
附甲	3	1	4
附乙			
附丙			
附丁			
備考	類/門/類/項/目/頁		

懸案 4

公文信案	印考考迄右茲ニ送付ス
公文信案	ノ通令官発在馬尼刺總領事宛電報轉電越セルニ付
公文信案	本件ニ関シ今般在台北加及台湾外事課長ヨリ別紙字
公文信案	名件
公文信案	火燒島沖ニ坐礁セルフーバー号ノ現状ニ関スル件
公文信案	受人信發
公文信案	海軍 陸軍 遞信 各次官宛
公文信案	名件録記
公文信案	外子船船難同信
公文信案	堀内次官
公文信案	主 亞米利加局長
公文信案	米一機密合第四八九號
公文信案	昭昭和拾參年 貳月貳日
公文信案	昭和一三年 月三一日
公文信案	文書課發送昭利拾參年貳月 貳日發送済
公文信案	淨書
公文信案	正校(原稿)
公文信案	附屬

文書課長

(12.7)

電信課長	大臣	次官	東亞	歐亞	米洲	通商	條約	情報	文化	調查	人事	儀典	文書	會計	秘書官
昭和13	二五四三	暗	臺北	一月廿九日後發	米	本省	廿九日後着	加藤臺灣外事課長	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省
廣田外務大臣	第二七號	本官發馬尼刺宛電報	第六號	貴電第三號ニ關シ	船底一帶浸水甚タシク顛覆ノ危險アリ上部船艙内ノ貨物ハ其ノ大部	分ヲ陸揚シ事務室ノ一ヲ殘シ他ハ稅關當局ニ於テ密閉セルモ三名位	ノ船員火燒島ニ殘留監視中ナリ	大臣へ轉電セリ	寫送先	外務省					

(2)

F-0150

02 10

電信課長

大臣
次官

東亞 歐洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和13 四六四四

臺北 二月十八日後發
本省 十八日後着

米

廣田外務大臣

第五八號

加藤臺灣外事課長

發ニ火燒島近海ニ於テ坐礁セル「フリーバー」號ニ關シ一月中旬多數ノ本島人共謀ノ上監視人ノ目ヲ掠メ同船積載貨物ヲ窃取シタル形跡アル旨報告アリタル處時節柄外交關係ヲモ顧慮シ不取敢新聞ニ登載セサル様手配シ事實ノ真相判明スル迄米國領事ニ對シ通報ヲ見合セ直ニ臺東廳ヨリ警部補及四名ノ警官ヲ派遣シ秘密裡ニ搜查セシメタル結果同島部落ノ本島人約百名ノ者一月十八日以降四回ニ亘リ「ミシン」、人絹反物、麻袋等六十種、三萬六千餘點、價格一萬四千餘

外務省

圓ヲ窃取シタル事實判明セリ依テ右贓品ハ返還ノ爲全部之ヲ提出セシメタルカ犯人ハ主謀者ニテ情狀重キ者ヲ處罰、附和雷同者ハ嚴重將來ヲ戒飭スル方針ナリト尙米國領事ニ對シテハ搜查モ落着シタルヲ以テ昨十六日事件ノ大要及處置振ヲ口頭ヲ以テ通報シ置キタリ追テ現地殘留外人及「サルベージ」乗組員ハ搜查官ノ勞ヲ多トシ其ノ處置ヲ感謝シ居レリ

本電拓務省及在京森岡總務長官ニ轉報アリタシ

外務省

外國船舶遭難関係雜件

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文情 調查 人典 儀典 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

分類 F.1.8.0.4

昭和13 三七四七九 暗 臺北 十二月廿三日後發 米、亞、情
 本省 廿三日夜着

有田外務大臣 小澤臺灣外務部長代理

第四一號

貴電第二七六號ニ關シ「ハリバートン」、「フウバー」號訪問希
 望ニ關スル電報轉電方ノ件

單ニ「フウバー」號遭難現場附近ヲ通過シ同所ノ平面寫眞ヲ撮ルノ
 ミナルニ於テハ差支ナシ

香港へ轉電セリ

外口船隻遭難事件

記

外務省

懸案

主信	2	1	3
附	2	1	3
甲			
乙			
丙			
丁			
備考			

公文書案	本件ニ關シ今般加茂台灣外事課長ヨリ別紙寫ノ通り電報アリタ ルニ付何等御參考迄右茲ニ送付ス (別紙台業 來信第五八 號寫作成添附ノコト)	名件録記	名入信發	受 信 人 名	受 信 人 名
外務省			堀内次官	拓務次官	台湾總督府東京出張所内 森岡總務長官
					宛各通
					台湾人ノフーパーノ積載貨物竊取ニ關スル件

文書課長

昭和拾貳年貳月廿三日發送済

淨書

正校(原稿)

昭和十三年二月二日起草

録田

主 亞米利加局長 任 第一課長

日附 附局

昭和一三年二月二日

22 45

F-0150

0212